



●人間科学研究科  
國吉 知子 教授  
— KUNİYOSHI Tomoko

## 親子関係を劇的に改善する心理療法 PCITセラピスト養成が本学で始動!

Parent-Child Interaction Therapy

問題行動を持つ子どもと苦慮する親を対象に、ライブコーチングにより親子関係を改善する心理療法として近年注目される「親子相互交流療法(PCIT)」。人間科学研究科國吉知子教授は、大学院でPCIT実践家養成ワークショップ授業を開始。日本初の試みである。「女学院から日本の親子関係を変えるパワフルな臨床家を！」と意欲的に語る。



▼親としての関わり方をその場でコーチ  
PCITとは暴力、かんしゃく、衝動性など問題行動のある幼児とその親を対象に親子同室プレイセラピーを実施、別室のセラピストが親に有効なスキルをライブコーチする米国発祥のアクティブな心理療法だ。親はその場でスキルを実践、効果もすぐに実感できる。代表的なスキルには、子どもの行動を具体的にほめる(Praise)、子どもの行動を描写する(Describe)などのPRIDEスキルと、避けるスキル(命令・質問・批判)があり、親はこれらのスキルを着実に身につけていく。  
國吉教授は2013年本学心理相談室に関西初のPCITを導入。今年度よりセラピスト養成授業を展開。院生は日本では稀なPCITトレーナーの國吉教授から「心理療法特論」でPCIT International認定の養成講座を受講、事例にも陪席し國吉教授から直接PCITのケースマネジメントを学ぶ。

「PCITはユニークな親子療法」と國吉教授は強調する。親子の交流を直接観察できる同室セラピーだからこそ、親子関係の悪循環改善のための行動指針が明確になる。  
親子の信頼感を構築する前半、しつけの練習をする後半の二部構成も特長。親がスキルを使って子どもを承認し見守ることで、子どもは情緒が安定する。その上で、子どもが自らの欲求の制御を学ぶステップに進む。親が子どもの

修了後は心理相談室で同教授のライブスーパーバイズのもとPCIT事例を担当し認定セラピスト(国際資格)を目指す。修了後も一貫した指導体制が整っているのが本学の強みだ。  
▼人は誰でも承認を求める



PCIT実践家養成ワークショップ授業の様子



▲PCIT公認テキストと國吉教授によるPCIT解説所収の書籍

衝動や攻撃性を適切にコントロールでき、子どもが親の指示に従えるようになることで親は自信と権威を回復する。「人は誰でも承認されたいと思うもの。PRIDEスキルは人間関係を円滑にするコミュニケーションのエッセンスです。」受講生からは「日頃の自分のコミュニケーションの問題点がわかるように」「親との関係を見直せた」といった声があがっているという。  
PCITは首都圏を中心に広まっているが、日本の大学でセラピスト養成に取り組むのは本学のみ。パイオニアとしての役割は大きい。  
「子どもを操作するのが、PCITではありません。ほめようと意識することで、親は子どもの良い点が見えるようになるのです。行動は自らの選択であり、誰でも意識的に変えることができます。PCITの普及によって、日本の親子関係の改善に貢献できれば」と國吉教授は笑顔で語る。